

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 こまくさ)

事業所番号	0670101179		
法人名	オークランドホーム株式会社		
事業所名	オークランドホーム		
所在地	山形県山形市南原町三丁目20-26.27		
自己評価作成日	平成21年9月1日	開設年月日	平成14年8月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ホームの特徴を最大限生かし、外の様子が見えるように工夫している。  
(ホームが大通りに面している事を生かし、毎日の学生の通勤時間等、カーテンやドアを開けて、声が聞こえたり見えるように工夫しています。)
- 本人のできる事、やりたい事に視点を合わせ、最大限続けられるように支援しています。  
(日常生活支援・外出・手工芸・買物等)

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成 21 年 10 月 29 日	評価結果決定日	平成 21 年 11 月 13 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「近所のスーパーに毎日のように出かける買い物」「自宅への帰省」「ピアノ発表会の鑑賞」「花笠祭りの見物」「美術館めぐり」「映画館での映画鑑賞」「足湯や温泉」「ドライブ帰りの外食」など、利用者の思いや希望を随所に取り入れながら、利用者一人ひとりの生活がより楽しく、さらに充実したものとなるように取り組んでいる笑顔と笑い声に包まれた明るいホームです。  
また、ユニットごとの理念を職員全員で毎年話し合い、ホームの現状や利用者と家族のニーズを踏まえた目標を定めながら、ケアの質の向上に積極的な姿勢で取り組み続ける向上心溢れるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については毎年、又は新人には説明して日々のケアに活かす努力をしている。具体的には目のつきやすい場所に掲示したりして、意識付けをしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念があり、ユニット毎に話し合い、毎年理念を作り上げている。また、目につくところに掲示し、職員全員で共有して実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として積極的に自分達から声をかける努力をしている。できるだけ顔馴染みになるように努めて声をかけてる。(散歩、買物を通して)	町内会に入っており、地区の夏祭り、お神輿、公園掃除、ゴミ拾い等に積極的に参加している。また、散歩や買い物に出かけた際には地区の方と積極的に会話して、馴染みの関係を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	8年目に入ってきたこともあり、地域の方々からも理解していただけるようになった。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねることで活発に意見交換できるようになってきた。利用者の為の意見が多くなり、具体的な内容が提案され助かっています。	運営推進会議は、2～3ヶ月ごと開催されており、行事予定やホームの状況報告がされている。また、意見交換や利用可能な施設等についての情報交換も行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員を受け入れる予定。 9/17にホームに来て打ち合わせ、10月から開始予定になっている。	介護相談員の受け入れ、事故発生時の報告、介護報酬に関しての相談などを通して、市の担当者との連絡や連携が行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は自動ドアの為、その都度対応している。危険でない限り、見守り体制をとっている。又、外に出たい時は職員と一緒に出かける工夫を行っている。	身体拘束をしないためのマニュアルがあり、研修会への参加や勉強会の開催が行われている。また、身体拘束廃止に関する知識や考え方についてのアンケートを職員に行い、その結果も活かしながら利用者が安全に過ごせるための対策に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修での学習会へ参加し、ホームに戻って来て再度学習会で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会の内容に取り入れ、全員で理解を深めている。利用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・職員が家族の思い、意見をしっかり聞き、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族の意見や要望を引き出す努力、場所作りをしっかりと行うように努めている。	家族との会話を書き留めておき、その中で気づいたことをケアの内容にも反映させている。また、行事や面会の際に、家族が感じた利用者の印象や変化について、教えてもらうようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年アンケートをとり、率直な意見・提案を聞いている。反映させる努力をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	極力努力に努めているが、まだまだ問題はあある。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修、外部の研修に積極的に参加している。	研修計画があり、事業所内での新任研修や職員の段階に応じた外部研修への参加が行われている。また、研修で得られた情報が職員間で共有できるように、回覧や勉強会も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所との交流研修を通して内部では気付けない事を学ぶ機会を作っている。相互の情報交換をすることで、自分を振り返り、質の向上につながっている。	グループホーム連絡協議会に加入して、交換実習や勉強会が行われており、アセスメントの書式を検討し、自分たちの実践内容に反映させている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望、不安な点をしっかり聞き、他に応に努めている。入居時に把握できない事は面会時に再度確認する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の今までの対応をしっかり受け止める。又、時間をかけてゆっくり関わる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、現状を把握し、必要であれば他サービス利用の調整を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を念頭に置き、本人をしる努力につとめ、お互い学び合う気持ちで接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支える協力者として、家族にも協力していただいている。時には外出・外泊を行ってもらっている。面会の少ない家族には、手紙や電話などでアプローチしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人には、来たら写真を一緒に撮ったり、手紙を書いたりして支援している。行き着けの美容院には継続して行けるように支援している。同窓会への参加等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、見守り・声がけている。利用者同士が関わり合える場を作り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも相談、連絡等があり、支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で一人一人の思いや希望について耳を傾け、感じる努力をしている。家族からの情報も得ながら、その人をする努力をしている。	センター方式を使用しており、家族にも協力してもらいながら、本人の意向を重視するようにしている。また、困難なときには、表情や様子から思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネ等からの情報から把握するように努めている。又、センター方式の利用で細かく確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆっくり本人と関わる事で、本人のできる力、能力が分かり、生活の中で発見して記録し、職員共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全員で定期的又は臨時でアセスメント・モニタリングを繰り返している。その都度、家族、本人の意見を取り入れている。	本人や家族の要望、職員の日頃の気づきやアイデアを取り入れた介護計画が作成されている。また、3ヶ月ごとの定期的な見直しや変化があった際の随時の見直しも行われ、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを活用し、ケアの気づき、工夫等本人の言葉を記入し、共有している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の図書館から紙芝居を借りて活用している。情報を得ながら、幅広い資源活用が出来るように支援している。(ボランティア含む)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続して受診できるように支援している。必要時看護師と同行して医療に繋げている。必要時、近所の医師が往診の対応もできるようになっている。	家族の協力を得ながら、利用者の希望するかかりつけ医に職員同行で受診している。また、近隣の医師による週2回の往診や緊急時の対応も行なわれており、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置しており、健康面、相談等に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族等に説明、相談しながら、医療機関にスムーズに繋がれるように心身の情報やケアについての情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向をふまえ、ホームでできるケアの内容を説明し、職員の不安・ストレスを学習会で話し合い、全員で取り組む体制をとっている。	医師や家族とも話し合いを行い、それぞれの状態や意向に応じる体制をできるだけ整えるようにしており、職員全員で方針や情報を共有するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開催している。心肺蘇生法(救急対応)に参加して学んできたり、看護師やマニュアル等からも学んでいる。一人一人不安な部分を他の人に聞き、出来る・わかるようになる努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている。地域の協力が得られるように働きかけている。避難物品も備えている。	ユニットごと(8月、9月)と10月に、日中と夜間の災害発生を想定した避難訓練が行われている。また、地域との協力体制が得られるように、運営推進会議等でも働きかけている。	今までの取り組みを続けながら、運営推進会議メンバーや近隣地域の方にも可能な範囲で訓練に立ち会ってもらい、その際の気づきを今後の災害対策にも反映させるなど、地域との協力体制をより具体的な形にしていく取り組みも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の誇りやプライドを損ねないよう言葉遣い、行為・行動に十分気をつける努力をしている。	利用者の状態や人格を重視し、声掛けや支援を行うようにしている。また、勉強会や支援の中でも職員同士で話し合い、プライバシーに配慮するよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思いを出せるように、又は選ぶように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせて、入浴したり、外出したりしている。できるだけその人に合わせる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは個別に支援している。以前していたお洒落はできるだけ続けてもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談して決めている。(チラシ等を見て)利用者も出来る事をフルに活用してもらっている。(一緒に買物・食材作り・後片付け等)	利用者と職員と一緒に買い物に行ったり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらったりなど、利用者にも出来ることはしてもらっている。また、バイキング、外食、芋煮会など、食事が楽しみなものとなるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを食べるように努めながら、栄養バランスにも注意している。 定期的に栄養士さんからアドバイス・カロリー計算を行ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、個別に歯磨き・うがい・入れ歯洗浄に力を入れて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意がない人も時間誘導し、トイレでの排泄に力を入れている。	オムツ使用の利用者の方でも、トイレ誘導の際には必ず便座に腰をおろしてもらい、できるだけトイレでの排泄を促すなど、一人ひとりに合わせた排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して対応している。 乳製品や食物繊維の多い物を摂取したり、散歩、体操等も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めていない。心身の状態、本人の希望の時に入れるように支援している。	毎日入浴できる支援体制ができており、利用者の希望や状態に合わせて、好きな時間に入浴してもらっている。また、足湯や温泉に出かける機会も多く設けられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間のメリハリをつける努力をしている。 生活リズムをつける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を活用して、職員が内容を把握し、管理している。 服薬確認を必ず行っている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみを行えるように支援している。 (ゲーム・歌・裁縫・習字・散歩・塗り絵等)			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買物、散歩等外出支援は随時行っている。天気、季節を肌又は五感で感じられるように支援している。	近所のスーパーへの食材の買い物や近隣への散歩に、毎日のように利用者と職員が一緒に出かけている。また、「美術館めぐり」「映画館」に出かけることも多く、外出の機会を積極的に設けていく支援が日々続けられている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる利用者はいない。 買物の会計のとき、支払いができる財布を渡している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をかけられるように支援している。 年賀ハガキ、暑中見舞い、手紙等出す為の支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって馴染みのものや季節を感じられるような物を飾りつけしている。 手作りで一緒に行っている。	ホーム内には所々に季節の花々が飾られ、利用者が作った貼り絵や切り絵も飾られている。また、大きなソファや小上がりもあり、利用者が好きな時に休んだり思い思いに過ごせる、居心地の良さに配慮した共用空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居場所がある。本人がゆっくりする場所を探す支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、それぞれ自分の大事な物を持ち込んでいる。 自分なりの場所作りをしている。	居室には、仏壇、タンス、椅子、家族の写真などが持ち込まれており、利用者一人ひとりの個性を尊重し、居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に必要なに合わせて環境面での支援は努力している。	/	/